

日時 令和3年12月22日(水)

14時00分～16時00分

会場 八戸市美術館 ワークショップルーム

<次 第>

- 1 開 会
- 2 会 議
 - (1) 基本計画の名称について
 - (2) 基本計画最終案について
- 3 その他
- 4 閉 会

●事務局

ただ今から令和3年度第5回多文化都市八戸推進懇談会を開催いたします。

本日は出席委員10名、欠席委員5名となっております。なお、出席員のうち、4名はオンラインでの出席となります。委員の過半数以上が出席されておりますので、多文化都市八戸推進懇談会規則第5条第2項の規定により、会議が成立することをご報告申し上げます。

それでは、ここからの進行は会長にお願いいたします。

●会長

それでは、議題1「基本計画の名称について」ということで、進めてまいりたいと思います。まずは事務局の方から説明をお願いいたします。

●事務局

それでは、議題1についてご説明いたします。前回の懇談会后、計画の名称に『多文化』という言葉を用いるかについて、委員の皆様にご意見照会をさせていただきましたが、まずその結果をご報告させていただきます。皆様からの回答をまとめた資料2をご覧ください。

11名の委員の皆様からご回答をいただきましたが、『多文化』を使用するが3名、「使用しない」が7名、「その他」が1名という結果となりました。各委員からの意見の内容につきましては、表に箇条書きで記載させていただいております。この結果も踏まえまして、基本計画の名称に「多文化」を使用しない形で今後パブリックコメントに臨みたいと考えております。

なお、『多文化』を使用しないことに伴う変更点ですが、1点目は計画の名称を「八戸市文化芸術推進基本計画」とすること、2点目は計画の3ページ「1 計画策定の趣旨」の12行目～21行目に、以前は「多文化」の言葉の定義等の記述がありましたが、こちらを削除し、8ページの「(2) 文化のまちづくりビジョン策定に至る経緯」に「活発に繰り広げられる八戸市民の多様で特色ある自主的な文化活動のことを『多文化』と定義し、」という文言を追加することとなります。

以上で、議案1に対する説明を終わりますが、「多文化」という言葉を使用しないことについて、

ご意見をいただければと思います。

●会長

ありがとうございました。

これまでの懇談会で、皆様からご意見を色々いただき、計画名称についてアンケートを取ったほうが良いのではないかとということで、お願いをいたしました。その結果が資料2ということになります。現行の『多文化』を使用するというのが3名、それから「使用しない」というのが7名、その他で1名、それから無回答が3名という結果になりました。この中に私の意見は入っておりませんが、私の意見は●●委員とほとんど同じであります。

懇談会の前に事務局の方と話をした時に、アンケートの結果の数字がすべてだと思いますが、問題は「使用する」と、「使用したほうがいいのではないか」という形で回答を寄せてくださった方々に、ご理解をしていただくということと、もう一点、今まで「多文化推進」や「多文化都市八戸推進懇談会」という形で私どもの会議は進めてきたわけですので、その名称そのものをある意味でも否定すると、それは自分がやってきたことを自分たちが否定するというのとはそういうことだと、これは重要なことですので皆様に理解をしていただきたいと思います。

つまり、我々の内部から「計画名称を変える」という意見があり、我々が「計画名称を変える」ということを内部で決めたわけですので、それにいままで関わってきた私たちとしては、そのことをしっかり理解をしていただかないと困るというのが私の率直な考えです。それを踏まえたうえで、先程冒頭で申し上げましたとおり、数字で見ると「計画名称を変える」という意見が多い結果となりましたが、それにしてもそこに至る経緯も含めて、皆様とやはり情報は共有する必要があるだろうというふうに思っておりますので、忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。

もっと言えばトップがこういう名称で世の中に出したくないと、自信をもって出せないという形であれば、我々が今までこの名称を使って助成事業を行う等いろんなことをしてきたことについても何ら自分たちを責める必要はないのですが、自分たちの中からどうもこれはおかしいよね、と言って、これまでやってきたことをまた自分たちで変えるというのは、やはりそのことについて、さっき申し上げた自己否定を自分たちでちゃんと受け入れるということ、まず前提として変えていかないと、あとでそうではないと言われると、これはまた困りますので、その辺はご理解をしていただきたいと思います。いかがでしょうか。

計画の8ページにも記載がありましたが、小林前市長が「多文化」という言葉を使って、「多文化都市八戸・・・」ということでやってきたわけですが、そこには、多文化共生とかという意味合いではなく、どちらかという先ほどの8ページのところで文言をちょっと加えたというような意味合いの、文化と芸術全部合わせて八戸の「多文化」、そういう意味合いで「多文化」という形で使われてきたわけですが、それを使わないということになるわけです。せっかく皆さんが意見をいただきましたので、それを合わせて、ここでは全部お名前を伏せて書かれておりますので何か聞けること等があれば、オンラインを含めいただきたいと思います。いかがでしょうか。

●委員

今、会長からの話があったとおり、今までこれですとやってきていたものを自己否定することになると言えばなるので、このままでいいのではないかなと思い、『多文化』を使用する」という意見で提出しました。しかし、ほかになにか良い名称があれば、それに従いたいと思っています。以上で

す。

●会長

はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

誤解の無いように理解をして頂きたいと思うのですが、私たちのこの審議会は、懇談会は名称変更について検討するというものではありません。たまたま、「多文化」という言葉についていかがなものかという意見があったため、皆さんに意見を頂くということで、本来のミッションとは全然関係なくて、むしろこれを受けた次のデザイン会社なり組織が、それを検討するというのが一般的なのですが、今回は時間の関係や、こういうアンケートの結果が出ており、そういう意味では数字が全てだと思いますので、そういう形で進めていくのが1番ベストだろうと思います。

今、ご意見ありましたが、他に何か良い名称があったらということなのですが、要するに「多文化」という言葉を使わないのであれば、「文化」という言葉を使用することで、これから進めていくということにはなるとは思います、他にいかがでしょうか。

●事務局

ちょっと補足ですが、「多文化」を使用しないとすると、一般的には「八戸市文化芸術推進基本計画」のような計画の名称になると思います。これまでの議論の中で、色々と八戸の文化政策あるいは各文化芸術の取り組みについて分かりやすく発信していく必要があるというような議論がございました。それを踏まえて、具体的に計画の取組施策の中に、「発信力強化とファンづくり」ということで、施策2の中に盛り込んでいる訳ですが、例えばその中で主な取組の中に、「取組方針をキャッチフレーズ化する」と「当該計画や文化政策のわかりやすい発信に取り組んでいく」というようなことを取組の一つとして入れております。

従って、計画の名称は簡単な名称になると思うのですが、文化政策あるいは文化芸術の取組もわかりやすく情報発信していくときにまた改めて、効果的なキャッチフレーズがいいというのなら、そこで考えていくというようなことを一応取組の中に入れていくということを補足で説明をさせて頂きました。

●会長

はい、ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

これは非常に重要です。今日は資料1で配られていますが、計画名称から「多文化都市」というこの部分をすっぱり取って、「八戸市文化芸術推進基本計画」になるということです。

「多文化都市八戸」という言葉に、私たち委員は15年以上関わってきました。実は小林前市長が当初使っていた「多文化」に、最初に違和感というか抵抗感をもったのは私でした。多元文化国家社会というようなアメリカの研究など、民族を含めてしてきた人間が、この「多文化都市八戸」と言われた時にびっくりしましたが、小林前市長は単純に全ての文化芸術を八戸は取り入れてやっている、というような、あるいはそれを振興させるというような極めて単純で分かりやすいというか、そういうものだというふうに私自身は理解をしています。今回それに対して、「多文化都市」というところに関して、やや違和感があるという意見がありましたので、今回はあえて、「多文化」を使用せず、通常の一般的な名称にするということになります。

ただし、これまで「多文化都市推進」というようなことで、八戸の名称で使ってきたことについて

は、これは歴史的な経緯ですので、やっぱり記述はきちんとしておくというようなことは、必要だと私は思っております。その辺を踏まえて、皆様にご意見をいただきたいと思っております。いかがですか。もし何もなければ、先ほど事務局からの提案がありましたが、この基本計画の名称については、「八戸市文化芸術推進基本計画」というタイトルにして、経緯については、「多文化都市八戸推進」を標榜して様々な助成あるいは事業を展開してきたということを明記する、ということになります。

また、以後については、「多文化都市八戸」という言葉をどうするかについては私たちが決める必要は一切ないと思っております。方向性としてはこのような形でよろしいでしょうか。長いこと関わってきた私たちとしては、名称を含めてその中でやってきたことがある意味、先ほど申しあげましたが自己否定、そこからもう一回、なにかを考え出すことにならざるを得ないかと思っております。よろしいでしょうか。

それでは、そういう形で進めさせていただきたいと思っております。これは多文化の条例も変えることになるのでしょうか。

●事務局

条例に明記された会議体の名称になっていますので、変更するということになるかと思っております。

●会長

わかりました。それでは、そういう様な形で進めさせていただきたいと思っておりますけれどもよろしいでしょうか。

●委員

はい。

●会長

あとは、トップがこのことを十分理解して、計画が表に出た時には、八戸市の基本計画はただの基本計画ではないということを、しっかりとプラスアルファを付けて説明をしていただければと思います。それでは、名称についてはこれで一応皆様の理解と情報共有したという形でやっていきたいと思っております。

次に、議題の2番目になりますが、前回色々ご意見等々いただいたものを事務局の方で手直しをしていただいたものが資料1という形で、完成されたものになっています。その基本計画の最終案について事務局のほうから説明をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

●事務局

それでは、議題2「基本計画最終案について」、前回の懇談会からの変更点を中心にご説明いたします。この懇談会及び庁内連絡会議でのご意見等をもとに、誤字脱字等の修正もありますが、修正した点について、計画の内容に関するもののみ順次ご説明いたします。資料1をご覧ください。

まず、第1部について、6ページをお開きください。「(1) 歴史的経緯や背景」の6行目、「現在でも、様々な結社が「俳句のまち八戸」のエネルギーを感じる活動をしているほか、短歌や川柳などの短詩型文学の結社も活発に活動をしています。」と修正を行いました。従来は俳句についてのみの記述でしたが、短歌や川柳についても記述すべきというご意見からこのように修正いたしました。次に

13 行目になりますが、「墓獅子」の後に「組舞」を追加いたしました。次に 20 行目になりますが、安藤昌益資料館が開館した旨追加いたしました。このページについては以上となります。

次に 8 ページをご覧ください。3 行目のジャズフェスティバルに関する部分ですが、「世界的」とあったところを「国内外」に修正いたしました。

次に 18 ページの「(3) 施策の体系」について、前回は 6 つの施策を並列で表記しておりましたが、それぞれの施策を相互に関連付けて取り組むということをイメージできるよう、「ベーシックな施策」である施策 1 があって、「テーマ別の施策」に施策 2~4 が、そして「環境づくりの施策」として施策 5~6 があるというように、施策を 3 つのグループに分類して表記するように変更いたしました。以上が第 1 部の変更点でございます。

次に第 2 部についてですが、26 ページをお開きください。このページの 3 行目と下の囲みの主な取組になりますが、市長公約や 12 月議会での答弁等も踏まえまして、教育旅行の誘致活動や文化施設と商業機能との連携についての記述を追加いたしました。以上が第 2 部の変更点でございます。

次に第 3 部についてですが、46・47 ページをお開きください。こちらには文化施設の位置を示した市内全域と中心街の地図を追加いたしました。48 ページ以降は、各施設の取組の概要を記載しておりますが、このうち、はっち・マチニワ・地区公民館・帆風美術館・公会堂・南郷文化ホール・南部会館・更上閣・博物館・縄文学習館につきまして、「(2) 推進していく主な取組」を中心により具体的な内容となるように修正を行いました。また、各施設の「(1) 目的と施設概要」に QR コードのほか、施設住所と電話番号を記載しております。

次に 70~73 ページをご覧ください。「本にふれる施設」といたしまして、八戸学院図書館・八戸工業高等専門学校図書館・八戸工業大学図書館の 3 施設を追加いたしました。

次に 80~83 ページになりますが、「歴史にふれる施設」といたしまして、安藤昌益資料館・国宝館・羽仁もと子記念館の 3 施設を追加いたしました。以上が第 3 部の変更点でございます。

次に資料編についてですが、87 ページの「市民アンケート・ヒアリング調査結果」の目次をご覧ください。全体の調査項目が分かるようにこのページを整理いたしました。また、これ以降に続く各質問項目のグラフにつきましても見やすくなるよう、レイアウト等を整理しております。

次に 141 ページをお開きください。「これまでの取組事例」についてですが、掲載順序を変更したほか、146 ページにまいりまして、「多文化都市八戸推進事業補助金」の一覧に事業名を追加するとともに、前回ありました平成 20 年・22 年度の事業と入れ替えまして、平成 26・27 年度の事業を追加いたしました。また、次の 147~154 ページでは、「本のまち八戸」「民俗芸能の普及啓発と後継者支援」「市史編纂事業」「ICANOF」の取組を追加いたしました。

次に 157 ページをお開きください。「文化施設・文化財一覧」の文化施設についてですが、「所在地」となっていたところを「基本情報」に改め、住所と電話番号を記載したほか、「施設内容」となっていたものを「施設紹介」に改め、施設の概要を記載いたしました。また、新たな施設といたしまして、山の楽校ほか 8 施設を追加するほか、新たな区分として「観光施設」を設けてマリエントほか 2 施設を追加いたしました。次に 163 ページからの文化財について、「所在地」の欄を追加し、有形の文化財等につきましては所在地等を追加いたしました。

次に 175 ページをお開きください。「文化政策の年譜」について、これまでは行政と民間の動きを別の欄で記載しておりましたが、1 つの欄で記載するように変更いたしました。また、平成 2 年にジャズフェスティバルの開催を、平成 12 年にジャズの館南郷の開館を追加いたしました。

最後に 179 ページをご覧ください。名称を「言葉の定義集」から「用語集」に変更いたしました。

計画の変更点については以上でございますが、計画の概要を A3 にまとめた資料も本日はお配りしておりますので、そちらをご覧ください。左上に計画の全体構成と基本理念、共通姿勢をまとめ、右上に施策の体系と取組方針を掲載しております。下半分には各施策の詳細について、各施策の関連性も含めて整理をしております。基本計画の本体がかなり厚くなりましたので、今後計画を説明する際にはこちらの概要資料を活用していきたいと考えております。

以上で、議題 2 についての説明を終わります。

●会長

どうもありがとうございました。何かお気づきの点がありましたら、ご意見やご質問を頂戴したいと思います。

まず、資料の表題のところになりますが、「多文化都市」というのがなくなります。そして「八戸市文化芸術推進基本計画」ということで、この辺のレイアウトは少し変わります。それから、以後目次を含めて第 1 部、第 2 部という形で表題があります。それから第 3 部は主な文化施設の内容で、前回の会議で意見があった施設については網羅されております。それ以降は、資料編 1 がアンケート調査結果、資料編 2 はこれまでの取組事例ということで書かれております。それから、資料編 3 は文化施設あるいは文化財一覧となっており、資料編 4 が文化政策の今までの系図、通年表となっております。

パッと、私が気付いたところがありましたので先に申し上げますと、最後の文化政策年表の 176 ページの一番下の平成 16 年、ここだけ他と記載が違いましたので、修正したほうが良いかと思います。

それでは、順を追って皆様のご質問やご意見を頂戴したいと思います。まずは、第 1 部の計画作成の趣旨や理念をということで、前回のご指摘を踏まえて、一部修正というところがありました。それを踏まえた上でいかがでしょうか。何かご質問、ご意見等ございませんか。順を追って進めていきたいと思いますので、第 1 部のほうに変更になったというのは先ほど説明がありましたけれども、いかがですか。計画は、今日の資料がこのまま印刷になるということですか。

●事務局

その通りです。

●会長

フォントが明朝じゃなくて、丸ゴシックのような感じということですか。

●事務局

メイリオというフォントを使用していますが、なにか気になるのであればお願いいたします。

●会長

障がい者にとって、こういったフォントが良いと思います。バリアフリーの観点というか、そういう事も気を使っているということです。教科書も以後はこういう丸文字のフォントになるようです。そのほか何か中身についてやこのレイアウトも含めて、よろしいですか。

●事務局

文化協会の方にも第2部だけでしたが、事前に説明をしております。その時に、字が小さくて見えないというようなご意見があって、今の大きさにしたということです。最初に文化協会にお示したのはもっと字が小さくて、10.5ポイントの字の大きさだったのですが、小さくて見えないとのご指摘があったので、ポイントを少し大きくして、本文は11ポイントにしました。その関係でページ数も結構後ろに伸びたりしています。

●会長

丸ゴシックだと小さくても少し大きめに見えます。これは文化協会の方は見てないのですか。

●事務局

直した後はまだ見ていただいておりません。

●委員

見出しと本文は同じ書体ですか。

●事務局

同じ書体になっています。

●委員

例えば、このメイリオ系でもちょっと変化したものの方が逆に見出しが目に入りやすくなるかなと思います。まったく一緒だとかうズラズラズラというような印象を受けますので、見出しのフォントを変えて、注目するところを作るのが良いと思います。

また、26ページの上から3行目、「教育旅行への誘致活動」と書いてあるのですが、これ「へ」は入れたほうがいいのか。教育旅行を誘致するのであれば、教育旅行の誘致活動で良いと思います。

●委員

表記のことで、学校とは違うかもしれないのですが、5ページで「～達(たち)」と言うときは、例えば「友達」とかは漢字を使いますが、複数を表現するときはひらがなで「子どもたち」となります。最近「子ども」の「ども」も漢字を使うこともあります、「たち」はひらがなを使用すると思います。

また、13ページの上から5行目ですが、「文化芸術が持つ可能性」の「持つ」についても、こういった手偏の漢字を使う場合、動作を伴うときは漢字ですが、感情とか目に見えないもの場合はひらがなのほうがいいのではないのでしょうか。

あとは、「可能性を活かす」の「活かす」について、活性なら活性で良いと思いますが、「生きる」なのか「生きる」なのか、そういうのは全体を通して同じようになっていれば良いかと思います。

最後に、「興味関心」の時は「・」がつくのかどうかについても、「興味・関心」なのか、「興味関心」というひとつの括りなのか、というところが気になりました。

●会長

どちらがいいのですか。

●委員

学校では「興味・関心」を主に使用しています。

●会長

わかりました。それからさっきの「子どもたち」の「ども」はやはりひらがなでしょうか。

●委員

どちらも使用されていますが、

●会長

文科省は結構漢字を使用していますが、子ども会は使用していません。

●委員

「供える」という意味で、使用していません。

●会長

文科省は「一人一人」も漢字です。一般人の私たちは「一人ひとり」というように最後の方をひらがなで書いており、文科省もその表記にしようという流れがあったと思いますが、漢字を使用しています。

●委員

今は漢字になりました。昔はかなりこだわって、漢字とひらがなに「一人ひとり」と表記していました。

●会長

「子供達」を読みやすいように書く、しかし、子ども会の関係で言うと「子ども」はひらがなの方が、また、「達」となると漢字が3つ続いているため、「子どもたち」が良いかと思います。

●委員

「友達」ようなの時だけ単語で漢字を使いますが、「私たち」とかと言うときはひらがなにしています。

●会長

あとお気づきの点がありましたらお願いします。

●委員

非常に細かいところで気づいたので言いますが、13 ページ目の下から 5 行目です。このところ、「豊かな」の「か」が抜けています。こういうのが他にも多分あると思います。

●会長

では、私からも注釈をお願いしたいなと思ったのは、「アウトリーチ」という言葉について、意味が分からないという人がいるかと思しますので、注釈をお願いしたいです。

●事務局

25 ページに「アウトリーチ」の注釈は入れています。

●会長

わかりました。そのほか、第 1 部と第 2 部についていかがでしょうか。パブリックコメントになると八戸市民だけじゃなくて、日本全国からこういうのに興味を持っている人からのチェックが来ますので、信じられないようなところから意見を頂戴することがあります。今のように、「てにをは」でおかしいのはやっぱり直しておいたほうが良いです。

なにか、いかがですか。それでは、私のほうからまた第 2 部の 35 ページの網掛けになっている主な取組のところですが、下の「観光地域づくり法人（一財）VISIT はちのへ」とありますが、観光地域づくり法人イコール VISIT はちのへではないのでしょうか。

●事務局

法人の名称は「VISIT はちのへ」です。

●会長

そのほかに観光地域づくり法人というのはあるのですか。

●事務局

市内にはないです。

●会長

そうなのであれば、「観光地域づくり法人の（一財）VISIT はちのへ」のほう表記としては良いかと思えます。

●事務局

はい。

●会長

あといかがでしょうか。皆さんの方からお気づきの点がありましたら、お願いします。

それでは、第 1 部と第 2 部は一応終えて、第 3 部「主な拠点施設における取組」について、これは施設がらみですので、間違いがあると大変です。当事者の方からもこれは確認しているものですが、

ご意見等お願いいたします。

●委員

60 ページのデーリー東北ホールのところ、上から 5 行目に「元輪転機工場跡地」と書いているのですが、この「元」を取っていただきたいと思います。

●委員

ちょっと気になったのは、81 ページの「国宝館」とあるのですが、「楡引八幡宮 国宝館」ではないでしょうか。これではどこの国宝館かわからないので、「楡引八幡宮」は書いておいたほうが良いのではないかなと思います。また、53 ページの「八戸市立集会場（更上閣）」について、「更上閣」という呼び方が親しまれているかと思いますが、「更上閣（八戸市立集会場）」とは違うのでしょうか。

●事務局

条例上は「八戸市立集会場」が正式名称です。

●委員

細かいところですが、南郷文化ホールと南郷図書館はこんなに離れていないと思います。

●委員

46・47 ページの地図についてですが、地理的なマッピングではなくて、役割のマッピングをしたほうが良いと思います。地図以降の各施設のページを読み込むのはすごく大変だと思うので、機能とか役割を、その連携が一発で見えるようにしたほうが良いかと思います。

地図に落とし込むのよりも役割機能みたいな感じで、なんかこう表現したらと意味合いで前回の会議で申し上げたつもりでした。このページ以外にそれに付随するような、類似するようなページがあればそれで良いと思います。

●事務局

各施設の役割というか、機能や連携の部分をもう少し図示出来たら、ということですね。一応多目的施設とか美術館とか、役割別の分類にはなっているのですが、●●委員の指摘はそれにプラスαということだと思うのですが、もう少しイメージが沸くようにお話してもらえればと思います。

●委員

図に書かないと伝わりにくいかと、文字で読み込ませるのは難しいと思います。このハード的な分類で分けるのではなくということなのですが、後でイメージをお送りします。

私だったら、これだけたくさんある施設がどういうふうに横の連携とか繋がりとか分野に及んでいるのかというのは、パッと分かったほうが良いと思って、このハードで分けるだけはわからないと思いました。

●会長

各施設の繋がりということですね。計画を機に、そういうふうに各施設が繋がってもらうのが一番

良いと思います。今は各施設で連携などはあるのでしょうか。

●事務局

全ての施設ではないですが、たとえばはっちと美術館はすでに連携した取組を行っており、施設ごとにはそういう繋がりはあるわけです。ただ、必ずしもそれが固定的な繋がりというわけではなく、その場面ごとの繋がりになると思いますので、それをビジュアルで概念化して見せるっていうのは非常に難しい部分ではあるのかなっていう感じはします。

また、現時点で繋がりが無い施設も、今後新たな繋がり可能性っていうのがあるわけが、そういった見えない将来の可能性まで含めて表すっていうのはちょっと難しいかと思います。そういう点でもちょっと難しいかなという感じはします。

●会長

いずれにしても、●●委員の方で一回提案していただいて、考えるヒントをいただきましょう。お願いします。

●委員

例えば、縦横軸で「多目的」「専門的」の度合いを表し、それぞれの施設がどこに位置するか、というようなマッピングがイメージできると思います。連携そのものを未来も含めて示すのではなく、現実的な機能としての施設の位置関係を図にすると分かりやすいので、これまでの整理の仕方、見せ方を変えるだけで良いと思います。こういった図を示すことによって、どういう整理で、市がこの公共施設を作っているのかということが、そのものが現れると思います。

●委員

表記についてですが、51 ページの下から 2 行目の「さらなる」は副詞なので漢字です。それから 55 ページの真ん中の「より良い」という言葉も漢字ではなく、ひらがなです。また、56 ページの下から 5 行目ですが、「日本古来の美を見つめなおす」の「なおす」は漢字でもいいです。あと、その上のほうの「発信して欲しい」について、欲望の「欲」ではなく、「ほしい」とひらがなの表記が良いかと思います。

63 ページの下から 9 行目の更上閣のところですが、「みられるような」の「み」は漢字がよろしいのかなと思いました。

●会長

あといかがでしょうか。

●委員

47 ページの歴史に触れる施設の下から 3 行目、南郷の「民族資料館」ですが「族」の字に誤りがあります。正しくは「俗」です。

●会長

47 ページですが、地図で「POO」と書いてありますが、これは「P」は一般的に小文字か、「ペー

ジ」になるかと思ひます。そのほかいかかでしょうか。

●委員

46 ページの地図ですが、洗心美術館のポイントの位置がもっと左です。八戸駅の右くらいが適当かと思ひます。

●委員

確認ですが、47 ページの「本にふれる施設」のところで、「八戸学院図書館」の「大学」が抜けているのですが、抜けているのが正しいのでしょうか。

●事務局

「八戸学院図書館」が正しいです。

●委員

短大もあるからということでしょうか。わかりました。

●会長

それでは資料編の方にいきたいと思ひます。まずは、アンケート調査結果ということで、何かお気づきの点がありましたら指摘をしていただけたらと思ひます。

●委員

91 ページですけど、これはもうアンケートを取った際に、このようになっていたのをそのまま載せるのかなと思ひのですが、「興味・関心」「興味、関心」が混在しているため、統一した方がいいかなと思ひます。

●委員

これは最終的にはモノクロですか。

●事務局

ネットに上げる時はデータとして上げるのはカラーになります。印刷するのはモノクロです。したがって凡例の見にくいところは、もう少し最終的には調整します。凡例自体が少し小さすぎるので、小さすぎるのでどこがどれだかわかりにくく、我々もそういう話しをしていましたので、調整します。

●委員

これは質問ですが「増えた方がいいと思ひるもの」とあるのですが、「よい」ではなく「いい」なのでしょうか。学校では「よい」を使用しています。

●会長

アンケートでは、「いい」と記載していたということでしょうか。

●委員

元のアンケートがこれを出しているからそのまま載せるべきなのかもしれないですが、「よい」に直したほうが良いかと思います。

●会長

他にいかがでしょうか。

では、資料編2「これまでの取組事例」ということで、いかがでしょうか。

●事務局

資料編は本編とは違うので、文字の大きさは小さくしています。

●会長

何か関連するところで疑問点ありましたら、よろしいですか。

それでは、資料編3「文化施設・文化財一覧」に進みたいと思いますが、いかがでしょうか。

●委員

159 ページのギャラリーなのですが、八戸グランドホテルの1階に「市民ギャラリー」というのがあり、そこはどうなのでしょう。規模とすれば、デーリーホールと比べると狭いのですが、市民ギャラリーとして貸し出しているの、資料として書いたほうがいいのかと思いました。

それから、城下の彩画堂もどうでしょうか。あそこもギャラリー持っています。

●委員

ラピアも展示をすることがあり、結構いろんな場所や施設で行われていると思います。

●会長

西郵便局にもギャラリーがあったと思います。

●委員

青銀のギャラリーは美術館と連動したものだから入れたいという気持ちがあるのかと思います。

●会長

たくさん入れてはどうでしょうか。八戸駅にもギャラリーのようになっている場所があったかと思えます。

●委員

八戸駅は、フリーブレイズとか、どちらかと言うと企画的にやっているような感じがします。

●事務局

青銀と美術館の協調開発の一環で、青銀の1階と3階にはピクチャーレールの入った専門のギャラリーがあります。青森信用金庫でも1階で展示を行っていますが、ロビー展という位置づけです。青

森銀行がこの一覧に入っているのは、ギャラリーとして独立した空間があるためで、対してグランドホテルはスペースという位置づけになるのではないかと考えられます。

●会長

これはちゃんとやっている施設は載せておかないといけないと思います。今思い出す限り数を上げて消去するほうがいいのではないのでしょうか。他に、何かないですか。オンラインの委員の方々も、なにかこんなギャラリーがあるとか、お気づきのある方はお願いいたします。

●委員

別件ですが、160 ページの「観光施設」のところに3つ施設が書いていますが、八戸駅の2階はどうでしょうか。

●事務局

観光情報センターのことでしょうか。

●委員

そのとおりです。八戸の情報を伝えていくということで観光施設として捉えられると思います。

●事務局

観光案内所と吉田初三郎の絵とか、種差関係など若干展示もしていたと思います。

●会長

では入れてもよいのではないのでしょうか。

●委員

ユートリーは入らないのですか。

●委員

ここの資料編に関しては、別に民間施設といえども校正の必要はないと個人的には思います。いちいち住所・電話番号は間違っていないですかみたいなことやっているとおまじりにきりがない話になってくると思います。

●会長

おそらく漏れているよりは、なんでうちを取り上げなかったのだというふうに、公的な冊子になったときにクレームではありませんが、問い合わせがあるというよりは、一応取り上げて、いかがですかと確認していたほうがよいと思います、それまで眠っていたのがここは頑張らないといけないかなと頑張ると、それは活性化につながる、そういう刺激を与えることにもつながると思います。

住所と電話番号の欄ですが、下が少し空いています。レイアウトの調整はできますでしょうか。真ん中に行くようにすればそれはそれでいいと思います。それから、南郷公民館の分館に南郷公民館の電話番号が記載されていますが、分館には電話がないということですか。

●事務局

職員が常駐していないため、ないです。

●会長

わかりました。次の文化財に進みたいと思いますが、これはそれぞれの種別の年代別に順番に記載しています。文化財については、電話番号は入れないということです。

●委員

所在地のところをずっと見ていくと、例えば最初の櫛引八幡宮は、括弧が1行で見やすいですが、その下の是川縄文館の横山の住所の横から別れた感じで2行になっています。これも改行するなどして、1行にしたほうが良いと思います。

●事務局

文化施設についてですが、●●委員から八戸学院大学にホールギャラリーがあるので、入れてもらえますか、とのご意見がありました。

●会長

ありがとうございます。文化財に戻りますが、そのほかいかがでしょうか。

では、資料編4「文化政策年表」に進みたいと思います。平成29年に記載がないため、何か盛り込みたいと思いますが、ありますでしょうか。

●事務局

28年の一番下のところで美術館閉館(建物解体)と一緒に、「はちのへまちなかアートラボ『Co. 部屋』開設」とありますが、これは平成29年のものとなります。

●会長

他に、なにか表彰などありましたでしょうか。

●事務局

令和3年に縄文遺跡群ユネスコ世界遺産登録を追加お願いしますとのことでコメントいただきました。

●委員

平成30年の八戸酒造のところですが、メセナアワードの優秀賞受賞という内容なので、修正をお願いしたいです。また、おそらく帆風美術館も以前に受賞されていたように思いますが、表記がありますでしょうか。

●委員

帆風美術館は平成24年にメセナアワード受賞しています。正式な名称は後ほど確認してお知らせします。

●会長

はい、分かりました。他にいかかでしょうか。

それでは、先へ進めさせていただきたいと思います。資料編5「用語集」について、カタカナの言葉などで注釈漏れがないか、あとで読んでいただければと思います。

それでは大体こんな感じになりますが、今週またもう一度読み返していただいて、お気づきの点がございましたら事務局のほうにメールなり電話なりでお願いをしたいと思います。

「多文化都市八戸文化芸術新基本計画」という表題につきましては、「多文化」あるいは「多文化都市」というのを使わないというアンケート結果もございましたので、この表題は「八戸市文化芸術推進基本計画」という形になります。その代わりに、「多文化都市八戸」あるいは「多文化」についても文言、あるいは今までの歴史的な経緯についてはきちんと明記するという形にしていきたいと思います。

今日いただいた資料を全員読み返していただいて、先ほどありました「てにをは」を含めて、お気づきの点がございましたら連絡をしていただきたいと思います。特に固有名詞ですね、あるいは歴史的なことにつきましては、やはりパブリックコメントを出すということになりますと、慎重にチェックをしていけないと思いますので、その辺を丁寧に読んでいただきたいと思います。

オンラインで発言をされてない委員の方もいらっしゃるかと思いますが、どなたかご意見ございますか。

それでは、最後にその他ということで事務局からお願いいたします。

●事務局

それでは、その他ということで今後のスケジュール等についてご説明させていただきます。

まず、会長からもお話しがありましたが、本日お示しした基本計画にかかるご意見等何かございましたら、12月27日までにお知らせください。様式は自由ですので、メールにてお知らせください。

次に今後のスケジュールですが、来年1月から1か月間、パブリックコメントを実施する予定でございます。そして、2月中旬から下旬に庁内関係課による会議と懇談会にて、パブリックコメントの意見等を反映した完成版として、本計画を皆様にお示しする予定でございます。3月には市長への答申を行い、計画の完成及び4月からの計画実施という流れで進めていきたいと考えております。

●会長

ありがとうございました。今後の流れについて、何かご質問等がありますか。

●事務局

補足ですが、計画策定にあたっては教育委員会からの同意も必要となっております。今月から来月にかけて、教育長はもちろん、教育委員にも計画の中身を説明しながら、計画について同意をいただくという形になります。改めて子どもたちへの文化芸術体験あるいは鑑賞機会をつくるということも計画には盛り込んでおり、色々な場面で教育委員会との連携も必要となってくるため、これは大事な手続きであると思っております。

●会長

ありがとうございました。人材育成ということで、よろしく願いいたします。それでは時間とな

りましたので、事務局のほうにお返ししたいと思います。

●事務局

それでは、これをもちまして本日の会議を終了いたします。委員の皆様、本日はありがとうございました。